



E42 紀勢道 KISEI EXPWY

勢和多気JCT ↔ 尾鷲北IC
Seiwa-Taki JCT Owase-kita

55.3km

紀勢自動車道 (三重県区間) 全線開通 10周年

紀勢道が縦貫する三重県南部は、熊野灘に面した日本特有の多雨地域であり、特に災害時にはアクセスが困難なエリアとなっていました。

紀勢道は三重県中部と南部を結び、
経済・文化・暮らしを支えるとともに、
“いのちの道”として機能しています。



目 次

三重大学 酒井理事 インタビュー P2

紀勢自動車道（紀勢道）の概要 P3・4

■ 路線概要 P3

■ 交通量の推移 P4

紀勢道の整備効果 P5～13

■ 経済効果 P5

■ 地域間交流・雇用 P6

■ 農水産業 P7

■ 企業立地・産業 P8

■ 観光振興 P9・10

■ 医療支援 P11

■ 安全・安心 P12

■ 休憩施設での取組み P13

今後の展望 P14

路線のあゆみ

紀勢道の「これまで」と「これから」



“何も起こらない生活”
それを守ることが重要

三重大学
酒井 俊典 理事（社会連携担当）・副学長

日本は自然災害が多い国であり、国土や社会の防災対策が不可欠である。特に近年は、異常気象や地震に伴う災害が激甚化・頻発化しており、被害を最小限に食い止めるインフラとして道路ネットワークの重要性が高まっている。紀勢道沿線地域の特徴や紀勢道が果たす防災の役割、また地域の人々への影響や今後の期待について伺った。

紀勢道沿線地域の特徴

三重県東紀州地域は日本でも有数の多雨地帯となっています。以前、住んでいた瀬戸内沿岸では40～50mm/h程度の降雨量で災害が発生していましたが、この地域ではそれを大きく上回る量の雨がたびたび降ります。こちらに来た当初は間違いではないかと思ったほど、雨の多い地域です。

また紀勢道沿線付近には世界第一級の断層である中央構造線があり、紀勢道が通るその南側の地帯は地形が急峻で地質的にもあまりよくありません。並行する国道42号は道路のり面が急でカーブも多く、大きな雨で通行止めがたびたび発生しています。

紀勢道が果たす防災の役割

紀勢道沿線は雨が多い地域であるため、多少の雨でも大きく斜面が崩れることはありませんが、通常を大幅に上回る雨が降ると地盤が耐えきれなくなり、平成23年紀伊半島大水害のような大規模な災害が発生します。その場合、復旧・復興にも多くの時間が

かかります。しかし、紀勢道はトンネルや橋梁の区間が多く、災害リスクの軽減という面では効果が大きいと思います。紀勢道は緊急輸送道路に指定されており、災害時に国道42号で物資や人を運ぶことが困難な場合でも、紀勢道が有効活用できると思います。

また、場所によっては津波からの避難場所にもなり、地震時の防災対策施設としての役割も期待できます。

さらに、4車線化されることで防災面だけでなく、安全性や円滑性にも効果があると思います。

地域の人々の安心につながる紀勢道

三重大学では、「共創の場形成支援プログラム」へ参画し、「紀南オープンフィールド構想によるみどりのアントレプレナー共創拠点」プロジェクトを立ち上げています。このプロジェクトでは、農業・教育・農村社会の3つをターゲットとして、多様な若者が三重県紀南地域に集い、地域課題を解決し、自ら描いた将来像に向けて挑戦し、

それを実現させる共創の場の形成をビジョンとしています。

ビジョンを進める上で、人々の生活を支える各種インフラをきっちりと守っていただくことが必要だと感じています。“何も起らない”いつも通りの日常生活を送る上で、地元住民に防災面から安心を与える紀勢道の意味合いは大きいと思います。

またプロジェクトでは南紀みかんなどの農産品の販路拡大も考えています。水産物も含めて一次産業の産品輸送にとって搬送時間の短縮、産品への負荷軽減といった点からも紀勢道の意味合いは大きいと思います。

今後の期待

今後、三重県内のさらなる観光客増加に向けた取組も重要だと感じています。熊野古道への来訪者が増えてきているのは紀勢道の影響が大きいと思いますが、紀伊半島の高速道路整備が進み東側と西側が繋がることで、さらに活気がでてくることを期待しています。

紀勢道(三重県区間)は全線開通10周年

東紀州地域と三重県中心部をつなぐ高速道路ネットワーク

E42紀勢自動車道(紀勢道)は、大阪府松原市から三重県多気町を結ぶ全長335kmの国土開発幹線自動車道である近畿自動車道紀勢線の一部で、E23伊勢自動車道、熊野尾鷲道路とともに構成する高速道路ネットワークの一部です。三重県内を南北につなぐとともに、東紀州と近畿・中部をつなぎ、経済・文化・暮らしを支えています。また災害や異常気象時などには、国道42号の代替ルートとしての交通機能を確保し、地域の生活基盤を支える“いのちの道”として重要な役割を果たす路線となっています。紀勢道以南が開通することで、より地域の生活を支える重要な道路となります。

2006年3月に勢和多気JCT～大宮大台ICが開通し、その後順次、区間ごとに整備が進められました。**2014年3月**には紀伊長島IC～海山ICが開通し、**紀勢道(三重県区間)の全線開通**となりました。そして**2024年3月に全線開通10周年**を迎えます。

区間	勢和多気JCT～尾鷲北IC
延長	55.3 km
車線数	2車線 ※一部区間で追越車線/ゆずり車線あり
沿線市町村	多気町、大台町、大紀町、紀北町、尾鷲市

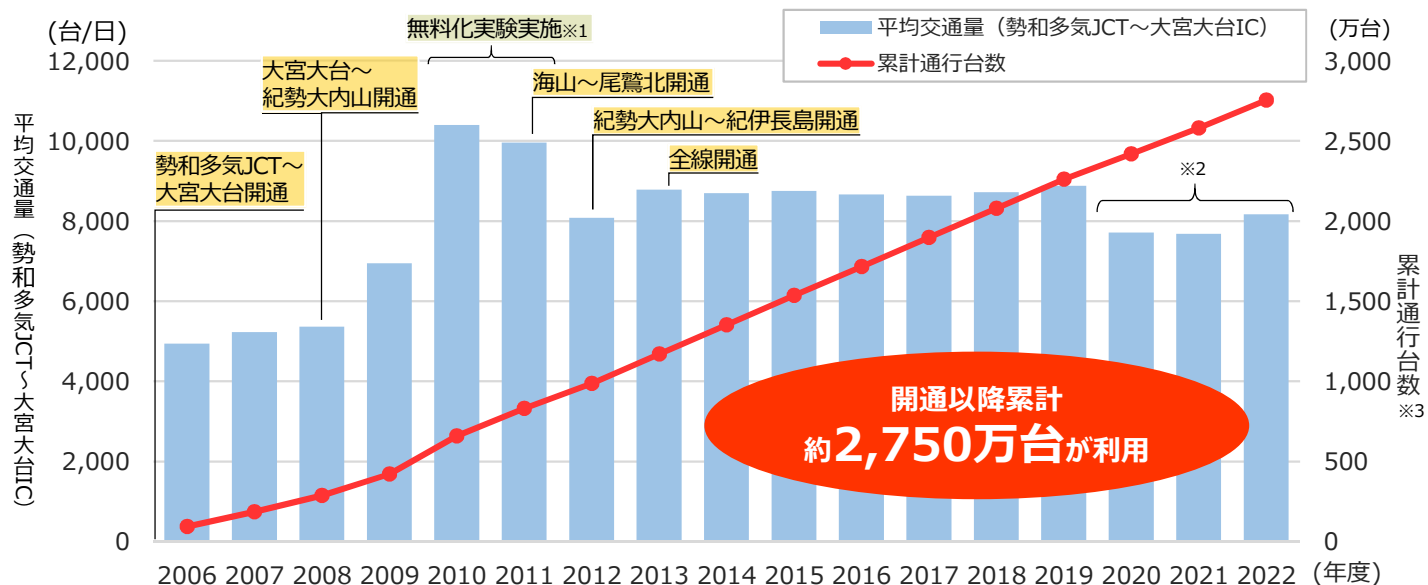


開通以降、約2,750万台が利用

大宮大台IC～紀勢大内山ICの開通後、交通量が大きく増加

■ 紀勢道の交通量の推移

勢和多気JCT～大宮大台ICの開通時に約5,000台/日だった交通量は、**2009年2月の大宮大台IC～紀勢大内山IC開通後に大きく増加**しました。その後、新型コロナウイルス感染症などの影響もあり減少しましたが、2022年度でも約8,000台/日の通行があり、開通以降の**累計通行台数は約2,750万台**と、多くのお客さまが紀勢道を利用しています。



※ 1 : 2010年6月28日～2011年6月19日

※ 2 : 2020年度以降は新型コロナウイルス感染症などが影響し、減少

※ 3 : 累計通行台数については、NEXCO中日本管理区間 (勢和多気JCT～紀伊長島IC) の台数のみ



10年間の経済効果は約1,000億円

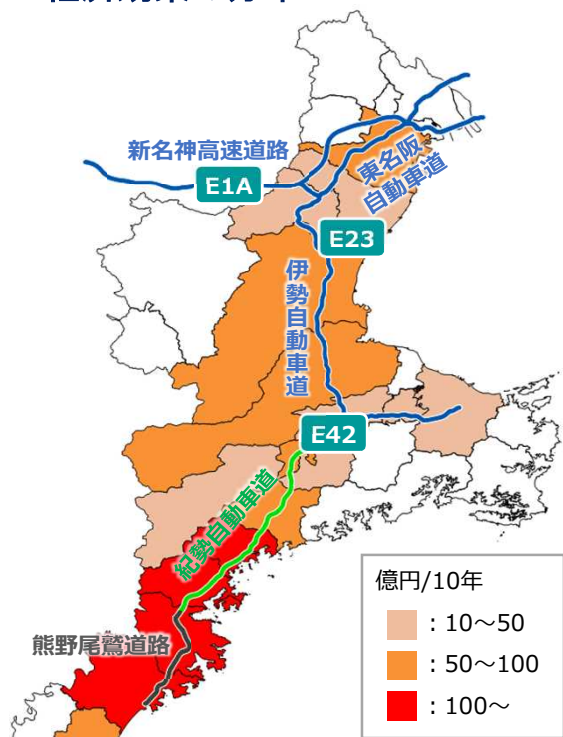
三重県全域に経済効果が広く分布

■ 紀勢道の経済効果

紀勢道が段階的に開通し、移動にかかる時間が短縮されたことによって、地域間の交流や物流が活発になりました。地域の生産性が向上することによる経済効果は、**紀勢道(三重県区間)全線開通後の10年間で累計約1,000億円**に上ります。



■ 三重県内における紀勢道の経済効果の分布

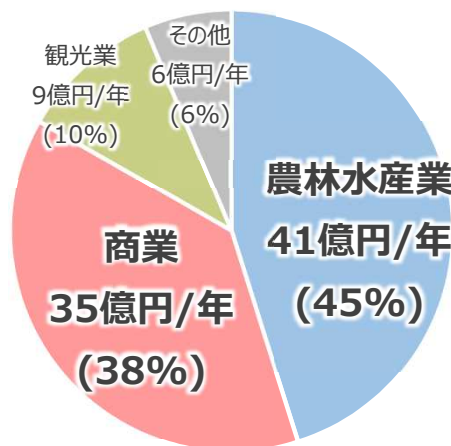


※10億円以上/10年の地域を対象として図示
 ※熊野市、大台町、大紀町、紀北町は旧町村をもとに、ゾーンを設定

経済効果は特に紀勢道の沿線地域を含む三重県南部地域で大きく発現しており、隣接する伊勢自動車道などと道路ネットワークを形成することによって、その効果は三重県全域に広く分布しています。

また、紀勢道の沿線地域では、地域の主要産業である農林水産業や商業などの分野の発展に大きく寄与しています。

■ 対象地域の産業別効果(生産額変化額)



※対象地域：多気町、大紀町、大台町、紀北町、尾鷲市、熊野市、御浜町、紀宝町
 ※最新の道路ネットワークにおける紀勢道の生産額押し上げ効果（2021年時点）
 ※四捨五入の関係で割合の合計が100%にならない場合がある

経済効果について

●道路整備による地域間の所要時間の変化と、企業や家計の経済活動との関係をモデル化して効果を算定しています。具体的には、神戸大学大学院 小池教授監修のもと、空間的応用一般均衡（Spatial Computable General Equilibrium：SCGE）モデルの1つであるRAEM-Lightを用いて効果を算定しています。

日帰り圏が拡大し、移動が容易に

県内外における日帰り圏が拡大し、三重県内の暮らしに寄与

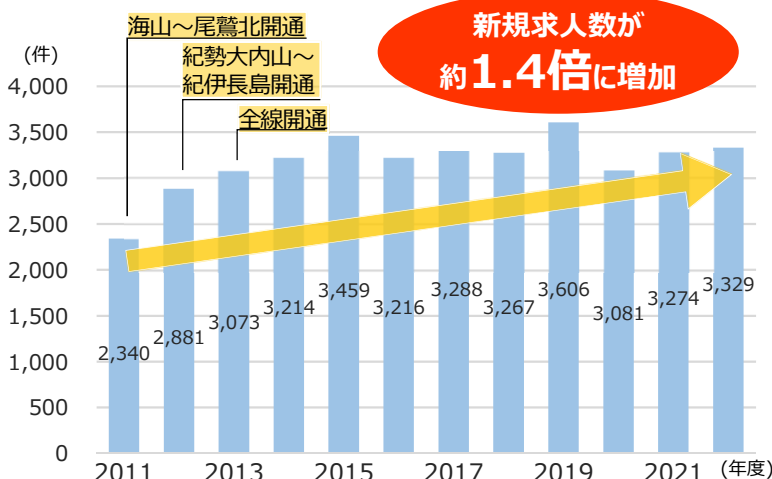
紀勢道の開通により、尾鷲市から移動できる圏域が拡大し、三重県全域や名古屋まで2時間で移動することが可能になりました。

紀勢道(三重県区間)の全線開通に伴い、国道42号を含めた沿線地域間の交通量は増加傾向にあります。紀勢道は紀勢道内での利用や三重県内での利用が約8割と大部分を占めており、沿線市町だけでなく三重県内の人の暮らしを支えています。



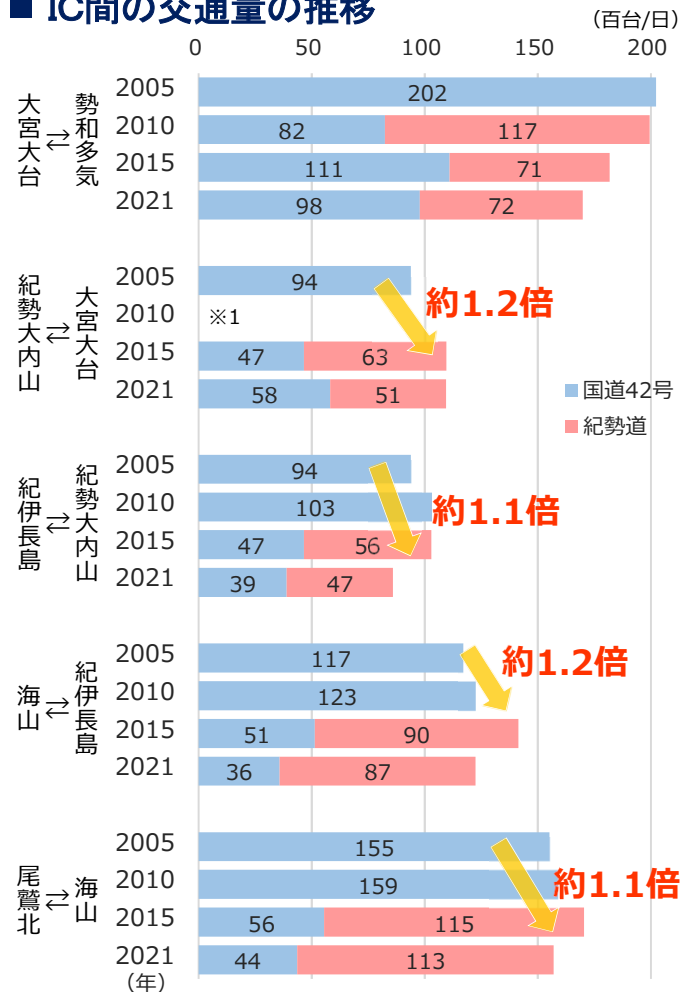
■ ハローワーク尾鷲管轄エリアの新規求人数の推移

2011年度から2022年度にかけて尾鷲市や紀北町などの新規求人数は約1.4倍に増加しており、地域の雇用が創出されています。



出典：三重労働局職業安定部職業安定課提供資料「ハローワーク尾鷲」
 ※ハローワーク尾鷲管轄エリア（尾鷲市、北牟婁郡（紀北町）、度会郡のうち大紀町錦）

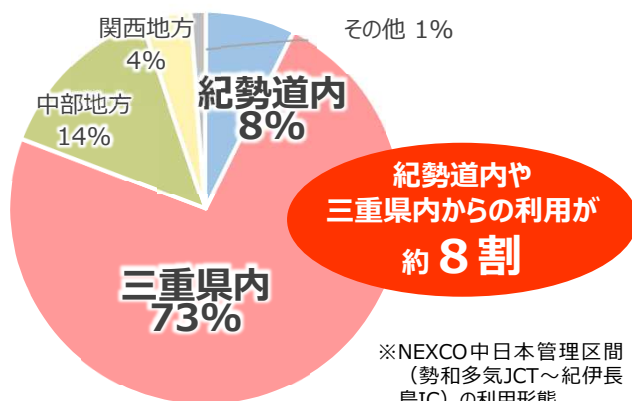
■ IC間の交通量の推移



出典：全国道路・街路交通情勢調査

※1：他年と集計方法が異なるため、未掲載
 ※2：国道42号は紀勢道並行区間の交通量を整理
 ※3：2021年は新型コロナウイルス感染症などが影響し、減少

■ 紀勢道ICとの利用先(2022年度)



※NEXCO中日本管理区間（勢和多気JCT～紀伊長島IC）の利用形態

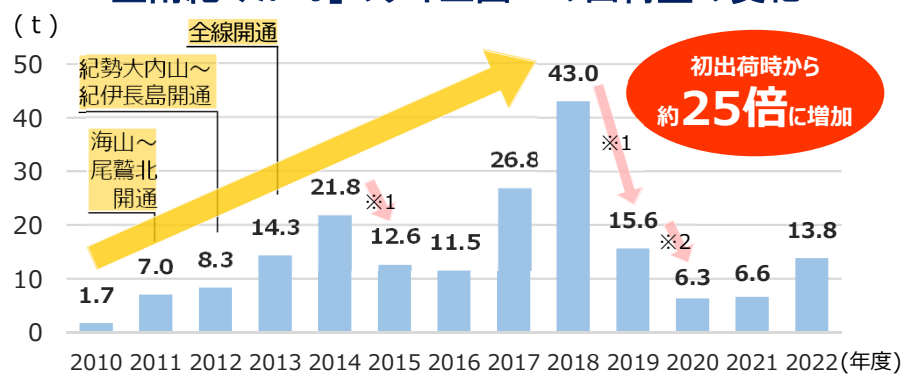
農水産物の販路拡大や輸送に貢献

三重南紀みかんの海外販路拡大を支援



J A伊勢では、地域の温暖な気候を活かした柑橘類の生産とブランド化を推進しており、2010年度から「三重南紀みかん」をタイ王国へ輸出しています。名古屋港から輸出する際には、峠道の揺れによる荷傷みが少なくなるなど紀勢道が安定輸送に貢献したことで、2018年度には輸出量が初出荷時の約25倍に増加しています。

「三重南紀みかん」のタイ王国への出荷量の変化

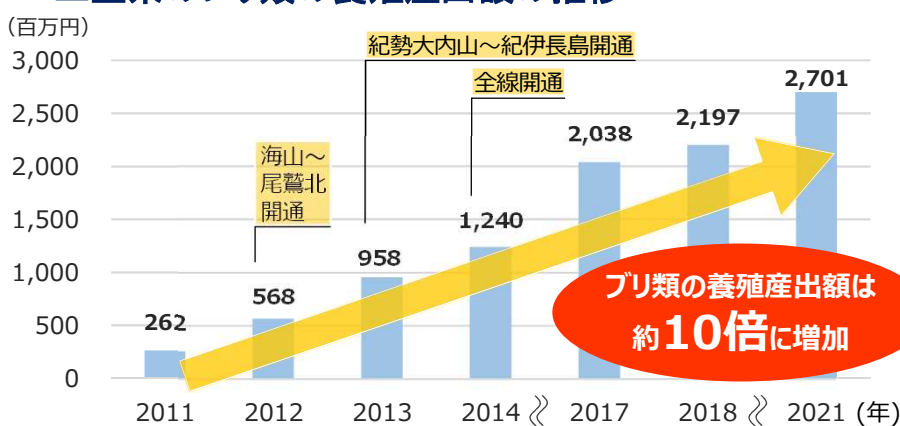


養殖ブリの産出額が約10倍に

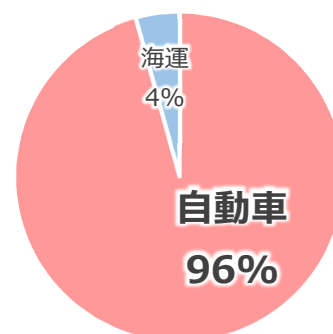
紀勢道沿線はブリの産地となっており、三重県のブリの養殖産出額は、10年で約10倍に増加しています。

三重県から全国への水産物の輸送は、約96%が自動車で行われており、紀勢道を含めた高速道路ネットワークにより安定供給が可能となったことで、地域産業活動に貢献しています。

■ 三重県のブリ類の養殖産出額の推移



■ 三重県から全国への水産物の輸送機関別割合(2021)



出典：貨物地域流動調査

Topics 幻の高級魚「マハタ」

マハタは、沿岸生態系の上位に位置する大型の肉食魚であることから天然物の漁獲量が少なく、また、極めて美味であることから、幻の高級魚と呼ばれています。平成24年にVNNのワクチンが実用化されたことなどにより種苗の品質が向上し、生産の安定化が期待されており、三重県のマハタ種苗生産量は全国シェアの約8割で、養殖生産量は日本一を誇ります。県内の養殖マハタの約6割が尾鷲市で生産されています。

平成23年に設立された「おわせマハタ協議会」では、おわせマハタを提供できる飲食店や小売店を「おわせマハタ登録取扱店舗」として認定し、紹介することで、地域内外へのマハタの知名度の向上と流通促進に取り組んでいます。

■ マハタ



出典：全国漁業協同組合連合会

製造品出荷額等が約2.1倍に増加

製品の安定輸送を支援し、製造品出荷額等の増加につなげる



■ 工業団地への進出企業

沿線市町の工業団地においては紀勢道(三重県区間)全線開通後に様々な企業が操業を開始しており、企業活動に必要な素材・製品の搬出入において紀勢道が利用されています。

～紀北町・企画課の声～

製造業に関して、**製造業従業者数は増加傾向**にあり、2014年以降製造品出荷額が増加していることは、**紀勢道開通による「輸送時間の短縮」**で**関係事業者の事業が拡大**したことも要因の一つと捉えています。

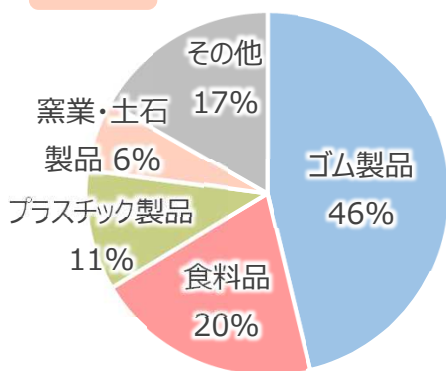


(ヒアリング調査より)

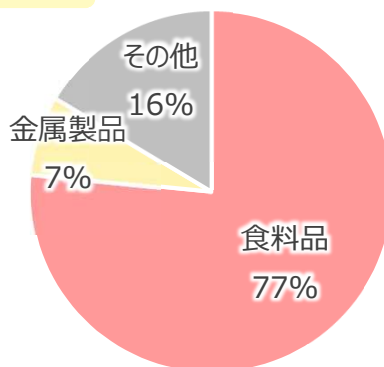
■ 製造品出荷額等の推移と産業別割合(2020)

沿線市町の製造品出荷額等について、尾鷲市では約2.1倍、紀北町では約1.4倍と紀勢道の開通後、増加傾向が見られます。製造業の内訳としては、尾鷲市では約8割が食料品、紀北町ではゴム製品が約5割、食料品が約2割となっています。

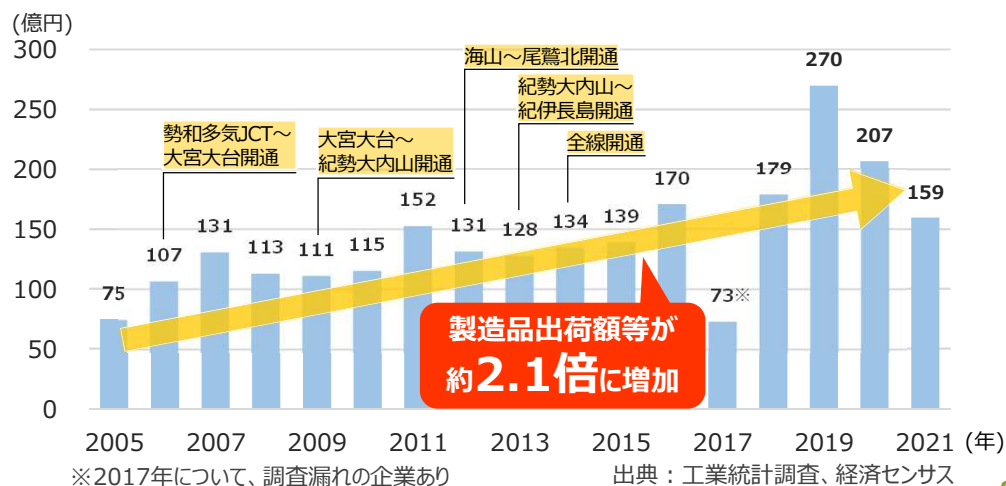
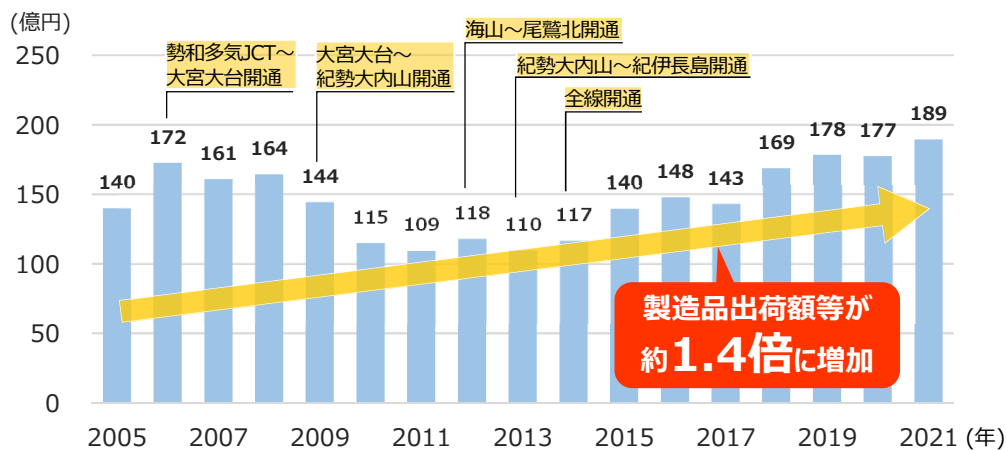
紀北町



尾鷲市



出典：令和3年経済センサス



※2017年について、調査漏れの企業あり

出典：工業統計調査、経済センサス

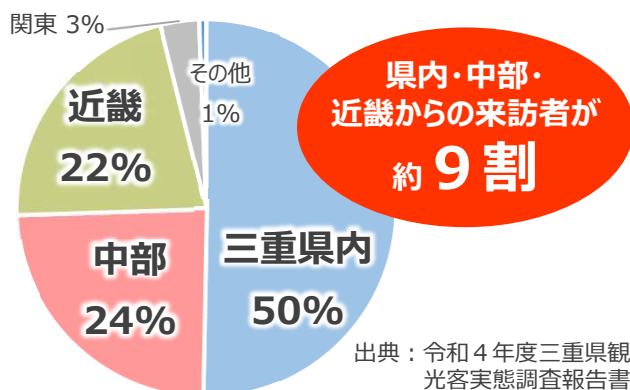
東紀州の入込客数が約1.6倍に増加

高速道路の整備と共に増えた観光客数

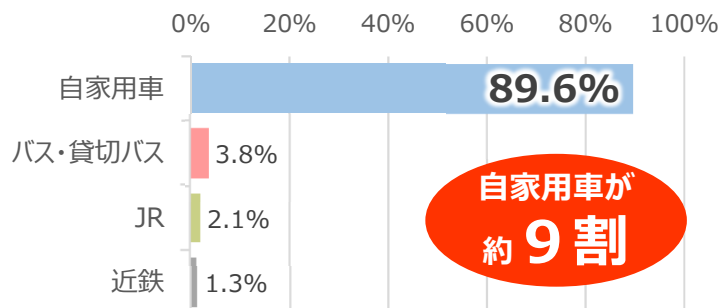


紀勢道が通過する東紀州地域の観光形態は、**県内や中部、近畿からの観光客が約9割**を占めており、**自動車利用が約9割**となっています。また、観光入込客数は紀勢道の段階的な整備に伴い年々増加し、開通後で**約1.6倍**に増加しました。紀勢道などの高速道路ネットワークの整備による**アクセス向上が誘客につながった**と考えられます。

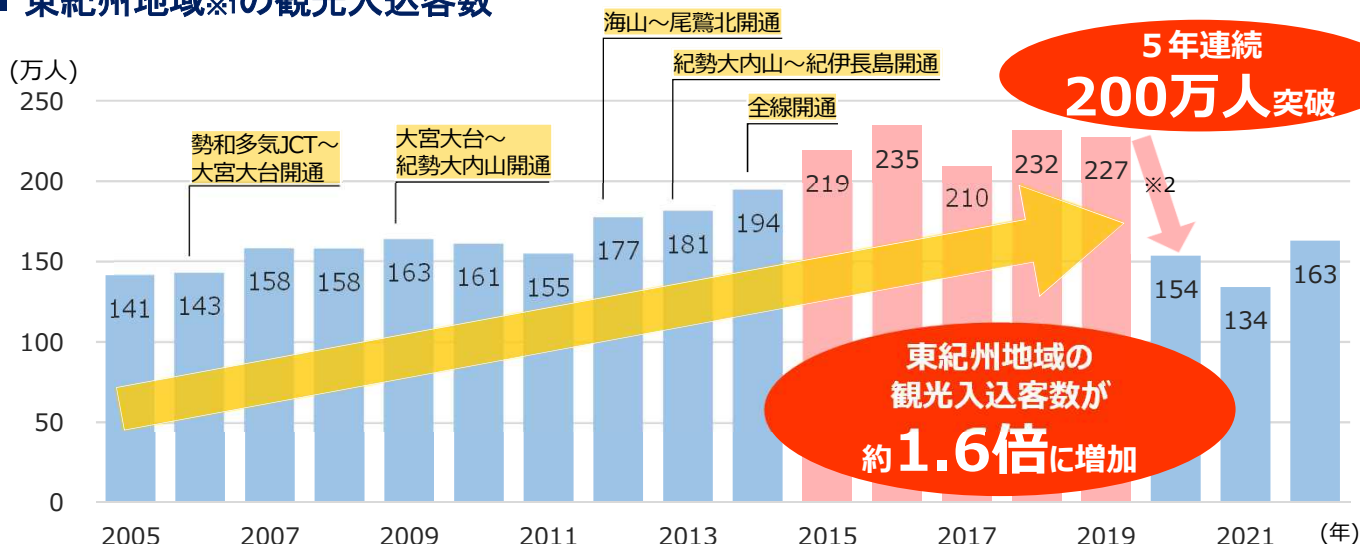
■ 東紀州地域への方面別来訪者割合（2022）



■ 東紀州地域来訪者における三重県までの交通機関別割合（2022）



■ 東紀州地域※1の観光入込客数



※1：東紀州地域：尾鷲市、熊野市、紀北町、御浜町、紀宝町

※2：新型コロナウイルス感染症などが影響し、減少

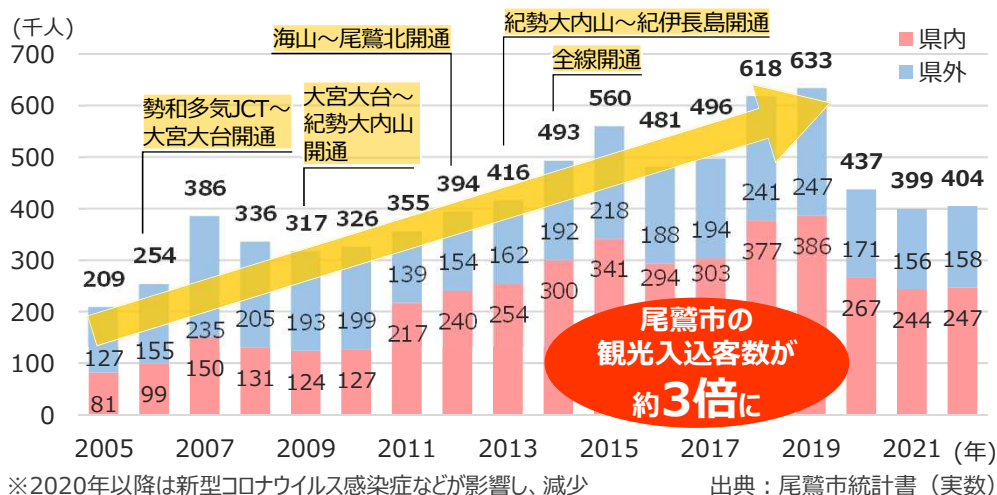
出典：観光レクリエーション入込客数推計書・地域別・月別入込客数（実数）

熊野古道来訪者数が約2.3倍に増加

県内・県外からの尾鷲への入込客数が約3倍に増加

■ 尾鷲市の観光入込客数

尾鷲市では、紀勢道の開通前と比較すると、新型コロナウイルス感染症拡大前の2019年には約63万人と約3倍に増加しています。県外だけでなく県内からの誘客も多く、三重県内の魅力を再発見することに紀勢道などの高速道路ネットワークが役立っています。



～尾鷲市・商工観光課の声～

観光客の増加の要因としては、2004年の熊野古道の世界遺産登録と、**紀勢道が開通したことが大きな要因**であったと考えています。また熊野古道や釣りを目的とする方に加えて、魚を食べることを目的とした方が訪れるようになるなど、**県内の観光客が増えたこと**も要因の一つです。



(ヒアリング調査より)

熊野古道の魅力が広く発信

紀勢道の開通前後の2005年から2019年にかけて、**熊野古道来訪者数が約2.3倍に増加**し、熊野古道の魅力が広く発信されています。

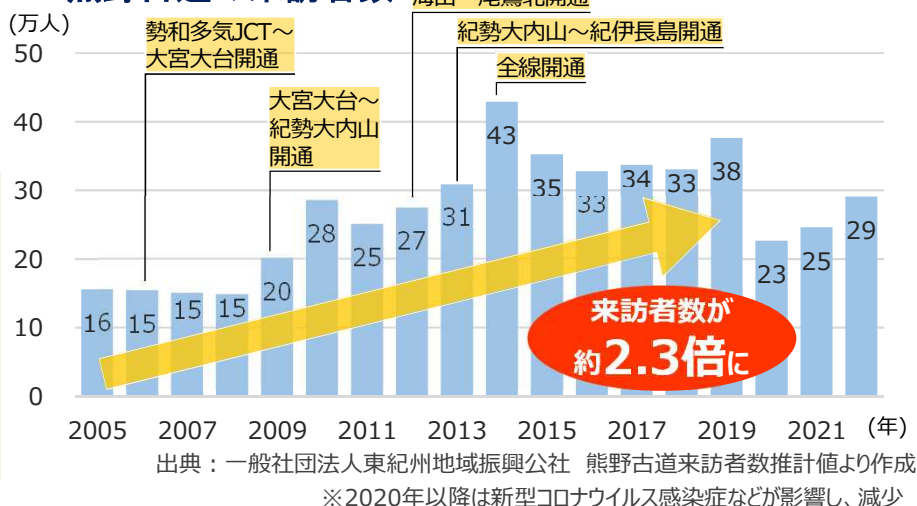
～尾鷲観光物産協会の声～

熊野古道は名古屋方面からの移動時間が長い
ため、紀勢道がなければ
訪問先として選ばれることは今ほど多くなかった
と思います。

(ヒアリング調査より)



■ 熊野古道の来訪者数



Topics 世界遺産「熊野古道」

熊野古道は熊野三山へと通じる参詣道の総称で、2004年に「紀伊山地の霊場と参詣道」の一部としてユネスコの**世界遺産（文化遺産）**として登録されています。

主に6つの道に分かれており、**伊勢神宮と熊野三山を繋ぐ「伊勢路」**はその大部分が紀勢道の並行区間である国道42号線と重複しています。石畳の残された峠道からは美しい海を眺めながらハイキングを行うことができます。

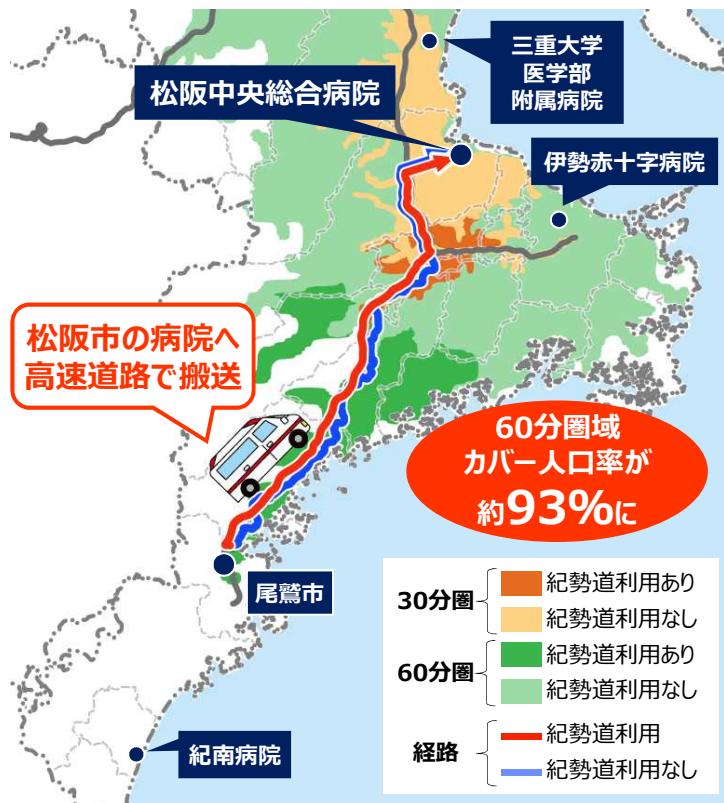


出典：熊野本宮観光協会HP（地図）・三重県地域連携・交通部HP（写真）

適切な医療を実現する“いのちの道”

病院への所要時間圏域が拡大し、カバー人口率が約93%に

■ 松阪中央総合病院までの60分圏域



紀勢道の開通により、松阪中央総合病院から尾鷲市までが60分圏内に含まれるようになり、約2.5万人だった病院60分圏人口が約5.6万人に増加し、沿線市町の人口の9割以上をカバーできるようになりました。

■ 松阪中央総合病院までの沿線市町の60分圏の人口カバー率

	紀勢道なしの場合	紀勢道ありの場合
カバー人口	25,079人	56,216人
カバー率	約41%	約93%

※沿線市町：多気町、大台町、大紀町、尾鷲市、紀北町

～三重紀北消防組合の声～

高速道路の順次開通により、遠距離であっても、**患者の状態に応じた、より適切な医療**が受けられるようになりました。

(ヒアリング調査より)



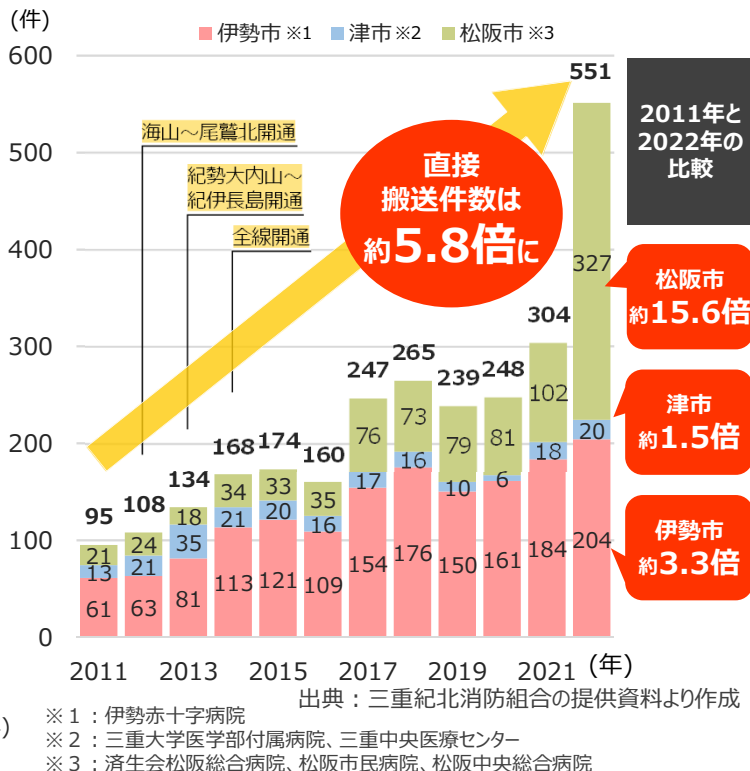
■ 東紀州地域の救急医療機関からの転院搬送件数

御浜町の紀南病院から伊勢赤十字病院への転院においては、搬送時間が158分から約60分短縮され、98分となりました。また東紀州地域の救急医療機関から伊勢赤十字病院への搬送件数は約3倍に増加しています。



■ 三重紀北消防組合(尾鷲市・紀北町)管内からの直接搬送件数の推移

県南部の尾鷲市や紀北町管内からの直接搬送件数は、伊勢市へ約3.3倍、松阪市へ約15.6倍に増加しています。

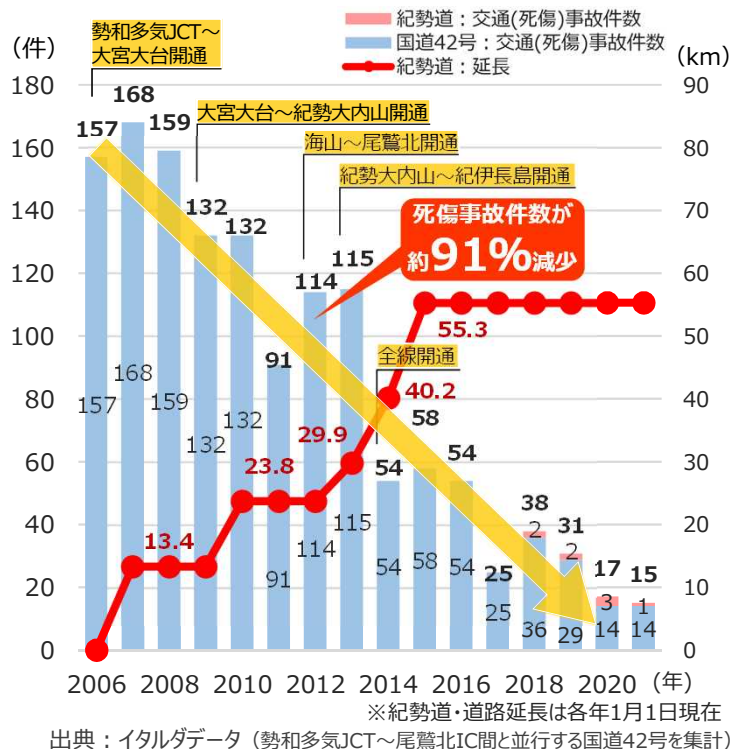


安全・安心を支える“いのちの道”

国道42号の代替路として機能を発揮、死傷事故件数が約91%減少

紀勢道が開通したことで、国道42号における事前雨量通行規制区間で通行止めが発生した場合でも地域経済や地域間交流が可能となりました。紀勢道をはじめとする高速道路ネットワークが国道42号の代替路として機能を発揮しています。また紀勢道の延伸に伴い交通事故は年々減少し、死傷事故件数は開通前から約91%減少しています。

■ 紀勢道延伸と交通事故(死傷事故)の推移



□平成16年台風第21号による国道42号の道路崩落 (紀北町)

出典：紀勢国道事務所

～紀勢地区広域消防組合の声～

紀勢道開通前は、一般道の車線規制や通行止めに伴い緊急走行時の安全確認や道路選定などに苦慮していました。また火災・救助事案の発生時にも、応援隊の到着に時間を要したため、少人数での活動となり職員の負担が大きかったです。



(ヒアリング調査より)

～尾鷲市・市長公室の声

尾鷲市は国道42号事前雨量通行規制区間に挟まれ、通行止めになると陸の孤島になっていました。現在では国道42号が通行止めになっても高速道路があるので、医療・物流・人の移動などすべての面において安心です。



(ヒアリング調査より)

高速道路を活用した避難施設

東紀州沿岸地域は津波災害の危険性が非常に高く、南海トラフ地震において、最大17mにも及ぶ津波到達が想定されています。

紀勢道では、南海トラフ地震による津波被害の備えとして、高台に位置する高速道路の管理用通路などを緊急避難施設として活用できるよう、整備しています。8箇所の緊急避難施設があり、地域住民の命を守る役目を担っています。



紀北町の緊急避難階段には緊急時の注意書きが記載されている

出典：紀勢国道事務所



地域振興・防災拠点としての休憩施設

紀北PA

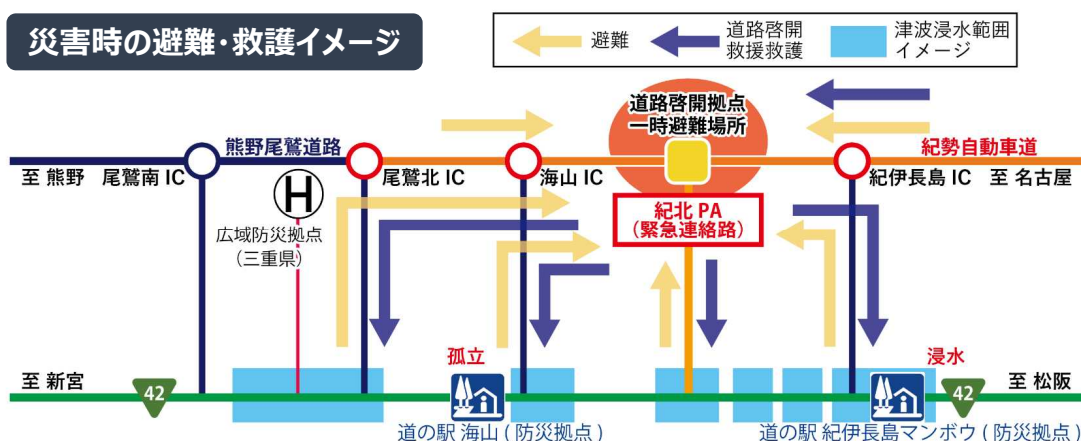
2015年6月にオープンした紀北PAは、道路利用者の休憩施設として利用されています。始神テラスは紀北PA内の町が運営する商業施設で、始神テラス内の特産品ショップ「キホクニヤ」は、紀北町をはじめ、尾鷲市や熊野市などの東紀州の特産品（海産物や柑橘類）が並んでいます。また、三重県産の食材を使ったメニューが味わえるレストラン「種まき権兵衛家カフェレスト」は、柱や梁、テーブル、イスにも尾鷲ひのきが使われていて、木のあたたかみ溢れる空間となっています。



■ 災害発生時の防災拠点としての役割

紀北PAは災害時には道路啓開や救援・救護活動拠点として利用できるよう計画されています。

具体的には道路復旧資材や非常用発電装置を備えた防災倉庫が設置されている他、トイレは停電や断水をしても利用可能なように工夫されています。また、災害時には国道42号や周辺地区などへ向かう緊急連絡路も設けられています。



奥伊勢PA

■ 奥伊勢PAでの三重県産木材の活用

奥伊勢PAの店内外でみられるひのきは、高速道路を建設する際に伐採した木を活用しています。

各所に設置されたテーブルや椅子の他、建物のルーバー※など、店内外の様々な場所で使われており、三重ひのきの木の温もりを感じる空間となっています。

※ルーバー：細長い羽板(はいた)を隙間をあけて平行に並べたもの



ネットワークの整備

三重県内の近畿自動車道紀勢線の状況

2021年度に熊野尾鷲道路（尾鷲北IC～熊野大泊IC）が全線開通し、名古屋圏から熊野大泊ICまでの高速道路ネットワークが整備されました。

引き続き、熊野道路・紀宝熊野道路の事業を推進していきます。

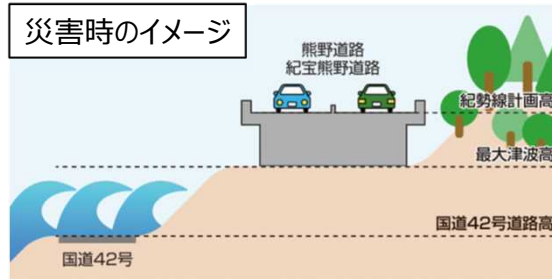
■ 熊野道路・紀宝熊野道路に期待される整備効果

効果1 災害時の救急活動支援

効果2 救急医療活動の支援

効果3 地域連携強化と観光地域産業への寄与

災害時のイメージ



安全・安心の確保のための4車線化

■ 計画的な4車線化の推進

暫定2車線は、速度低下や対面通行の安全性、事故や故障、大規模災害時の通行止めリスクといった課題があり長期間存続させることは望ましくありません。暫定2車線区間の4車線化を計画的に推進するため、優先的に事業化し整備する課題の大きい区間が優先整備区間として選定されています。

■ 事業の経緯

2019年9月：勢和多気JCT～紀勢大内山IC間を優先整備区間に選定

2020年3月：大宮大台IC～紀勢大内山IC間の一部の4車線化を事業化

2021年3月：勢和多気JCT～大宮大台IC間の4車線化を事業化



路 線 の あ ゆ み

西暦	和暦	紀勢道のあゆみ・周辺高速道路との接続	世の中の出来事	
1993	5	11/19 勢和多気JCT～紀勢大内山IC 施行命令	第61回式年遷宮	
1998	10	12/25 紀勢大内山IC～尾鷲北IC 施行命令		
2001	13		ETCサービス開始	
2003	15	12/25 紀伊長島IC～尾鷲北ICが新直轄方式に選定され、整備主体が変更	5/12 高速自動車国道法の一部改正（新直轄方式による高速国道整備）	
2005	17		2/14 度会郡大宮町、同郡紀勢町、同郡大内山村が合併し、大紀町に	
			10/11 北牟婁郡紀伊長島町、同郡海山町が合併し、紀北町に	
2006	平成	18	3/11 勢和多気JCT～大宮大台IC 開通	1/1 多気郡多気町、同郡勢和村が合併し、多気町に
				1/10 多気郡大台町、同郡宮川村が合併し、大台町に
2009	21		2/5 奥伊勢PA（上下）オープン	
			2/7 大宮大台IC～紀勢大内山IC 開通	
2010	22		高速道路無料化社会実験（～2011）	
2012	24	3/20 海山IC～尾鷲北IC間 開通（無料区間）		
2013	25	3/24 紀勢大内山IC～紀伊長島IC 開通	第62回式年遷宮	
2014	26	3/30 紀伊長島IC～海山IC間 開通（無料区間） 紀勢道(三重県区間) 全線開通		
2015	27	6/28 紀北PA（上下）オープン		
2016	28		G7伊勢志摩サミット	
2021	令和	3	8/29 熊野尾鷲道路 全線開通	
2024	6	3/30 紀勢道(三重県区間) 全線開通10周年		

【紀伊長島IC～尾鷲北IC】

紀勢国道事務所ホームページ

<https://www.cbr.mlit.go.jp/kisei/>



紀勢国道事務所 X(旧Twitter)

@milt_kisei



【勢和多気JCT～紀伊長島IC】

NEXCO中日本公式WEBサイト

通行料金など高速道路に関する各種情報をご確認いただけます。

<https://www.c-nexco.co.jp>




NEXCO中日本名古屋支社公式 X(旧Twitter)

愛知県・岐阜県・三重県・長野県・滋賀県を中心とした高速道路情報を発信しています。

https://twitter.com/c_nexco_nagoya



NEXCO中日本お客さまセンター

 **0120-922-229** 24時間年中無休（通話料無料）

IP電話など一部の電話からはご利用できない場合があります。その場合は052-223-0333（通話料有料）におかけください。

i Highway中日本（アイハイウェイ中日本）

24時間高速道路の道路情報を確認できます。出発時間、走行ルート、休憩などの走行計画にお役立ていただき、安全・安心・快適に高速道路をご利用ください。



<https://www.c-ihighway.jp/>



お電話はおかけ間違いのないようご注意ください。 ※運転中の携帯電話の使用は法律で禁止されています。ご利用はSA・PAで。

道路緊急ダイヤル

高速道路などを利用中に「故障車」や「落下物」、「道路の損傷」などを見つけたら、『#9910』道路緊急ダイヤル（通話料無料）にお電話ください。交通事故の通報は警察（110番）へ

【取り纏めにご協力いただいた地方公共団体】



三重県



尾鷲市



熊野市



多気町



大台町



大紀町



紀北町



御浜町



紀宝町